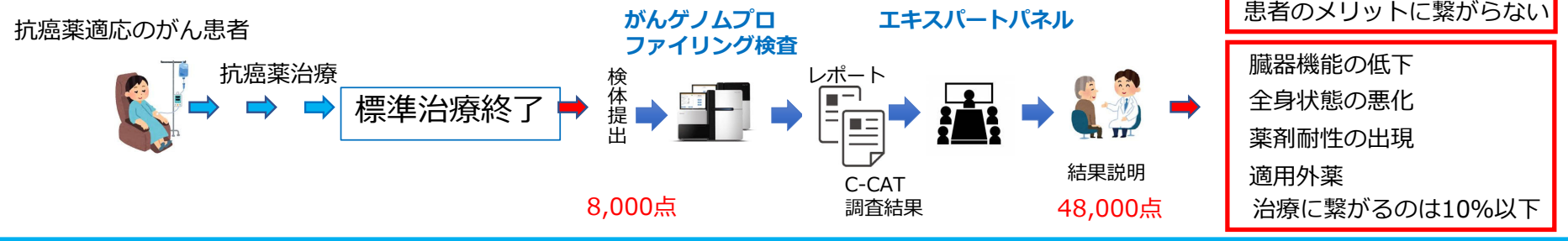
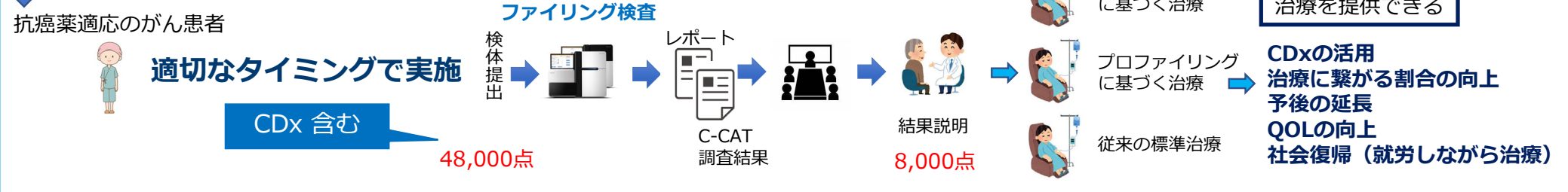


別添資料2

現状



理想的な体制



診療報酬の内容	診療報酬（現行）	診療報酬（変更後）	変更によるメリット	変更によるデメリット
検査のタイミング	標準治療終了（見込み含む）	適切なタイミング	<ul style="list-style-type: none"> 治療が適正に提供できる 治療成績の向上 QOL向上や社会復帰が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> 検査件数が増える可能性がある（一方、患者のメリットは大きい）
検体提出時	8,000点	48,000点	<ul style="list-style-type: none"> 検査費用は、検体提出時に回収できるため、病院のもちだしにならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし
結果説明時	48,000点	8,000点	<ul style="list-style-type: none"> 現行の運用で課題とされる「患者死亡時や他院入院時に48,000点が請求できない」ことが解決できる 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし
コンパニオン診断	個々の遺伝子毎の設定	検体提出時に包括	<ul style="list-style-type: none"> コンパニオン診断時の持ち出しがなくなる CGPを行った時だけ8,000点算定 	<ul style="list-style-type: none"> 検査費用が増える可能性がある

すぐに対応可能と考える課題

ICERを含めた医療経済的評価が必要